

ツキノワグマに関する留意事項等の周知について

	クマの出没状況	県民への発出する情報 および主な留意事項	県民への 周知方法	県の対応	市町村の 対応
春 (3~5月)	<ul style="list-style-type: none"> 子連れグマ・親離れグマ等の出没 里地での目撃が増えはじめる 	【大型連休前】 <ul style="list-style-type: none"> 入山時の注意喚起 電気柵の設置 見通しの悪い箇所でのヤブ払い 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村、関係機関への注意喚起 長野県HP、SNSにより情報掲載 報道各社と連携し、情報発信 	出没注意報 出没警報 ククマ対策員の派遣（出没要因調査・被害対策指導） 関係機関への注意喚起依頼・出没情報の収集	人身被害・農林業被害の現地調査 出没時の注意呼びかけ（防災行政無線・SNS） 県へ出没情報の報告
夏 (6~8月)	<ul style="list-style-type: none"> 山の食べ物の減少 農作物の被害（～9月） 農作物（果樹）の被害（～11月） 	【人身被害の発生】 <ul style="list-style-type: none"> 放棄農作物、生ごみの適切な処理 見通しの悪い箇所でのヤブ払い 			
秋 (9~11月)	<ul style="list-style-type: none"> 放棄果樹（柿等）への執着 堅果類が凶作の場合、大量出没 	【堅果類豊凶調査結果】 <ul style="list-style-type: none"> 大量出没への注意喚起（9月上旬） 			

春のクマに注意

○ 春は、クマが活動を始めます

春は、クマが冬眠（冬ごもり）から目覚め、食べ物を探して山中を動き回ります。

○ 山菜採りは周囲の確認をしながら

春、クマは草や木の芽を好んで食べるため、山菜採りで遭遇する可能性があります。

山菜採りに熱中するあまり周辺への注意力が散漫にならないよう注意が必要です。

また、クマ鈴やラジオを過信せず、複数人で行動するなど周囲に十分気をつけましょう。

○ 親子クマに注意を

母グマは、冬の間に出産した子グマを1～2頭連れている可能性があり、子グマを守るために、神経質になっています。

母グマの姿は見えなくても、子グマのそばには必ずいると思ってください。

クマと遭遇しないよう下記のことにご注意してください。

◇ 朝夕の行動は避ける

朝夕はクマが活発に活動します。この時間帯に山中に入ることは避けましょう。

◇ 周囲の確認をする

山菜はクマの好物です。山菜のある場所には、クマもいる可能性があります。

特に溪流沿いは水の音で、クマも人もお互いの気配を感じず接近してしまうことがありますので注意が必要です。

◇ クマのいる場所に近づかない

山中はクマの生息地で、どこにいてもおかしくありません。クマの足跡や糞などを見つけたら、それ以上近づかずに引き返しましょう。

◇ 笛、ラジオ、鈴の携帯を

クマは聴覚や嗅覚が人より優れています。人の気配を感じたクマは自ら避けてくれます。笛、ラジオ、クマ鈴など大きな音の出る物を携帯しましょう。

◇ 子グマを見たら立ち去る

子グマの近くには必ず母グマがいます。母グマは子グマを守るために、人へ攻撃することがあります。子グマを見かけたら、そのままそっと立ち去りましょう。

◇ 犬は連れて行かない

人の気配を感じたクマは、身を隠して人をやり過ごそうとしますが、一緒にいる犬に吠えられるなどして、人へ攻撃をする場合があります。犬を連れて山中へ入るのはやめましょう。

◇ 不意の遭遇に備えて

注意をしてもクマと遭遇してしまった場合、ヘルメットを着用していると頭部の被害を軽減できます。

夏のクマに注意！

○ 夏は、山の食べ物が少なくなります

この時期のクマは、山でサクラやクワなどの果実のほか、アリやハチなど、一度に多く食べることでできる社会性昆虫をエサにしています。特に夏の終わりごろは端境期で1年のうち最も食べ物が少なくなるため、人里近くに出没し、農作物に被害を出すことがあります。

○ 夏は、ツキノワグマの交尾期にあたります

6～8月頃にかけてはクマの交尾期にあたります。通常、クマは単独行動ですが、オスとメスが共に過ごすことが多くなります。また、1～2歳の子グマは母グマと別れて暮らし始めます。

○ 夏は、若い個体が人里に近い低標高域で活動します

高山植物を食べるため、山を登って高標高域で生活するクマ（主に成獣オス）がいる一方、比較的若い個体は山を登るクマを避け、低標高域で行動することが多くなります。このようなクマも人里に近づく可能性が高まります。

クマと遭遇しないよう下記のことにご注意してください。

◇ クマ鈴、ラジオ、笛などを携帯する

クマは聴覚や嗅覚が人より優れています。人の気配を感じたクマは自ら避けてくれます。クマ鈴、ラジオ、笛など音の出る物を鳴らしながら行動しましょう。

◇ 朝夕の行動は避け、複数人で行動する

朝夕はクマが活発に活動します。この時間帯に山中に入ることは避けましょう。また1人ではなく、複数人で行動しましょう。

◇ 周囲を確認しながら移動する

釣りやキャンプで溪流沿いを移動する場合は、水の音でクマも人もお互いに気付かず、思わぬ距離まで接近してしまふことがありますので注意が必要です。

◇ クマのいる場所に近づかない

山中はクマの生息地で、どこにいてもおかしくありません。クマの足跡や糞などを見つけたら、それ以上近づかずに引き返しましょう。

◇ 子グマを見たら立ち去る

子グマの近くには必ず母グマがいます。母グマは子グマを守るために、人へ攻撃することがあります。子グマを見かけたら、そのままそっと立ち去りましょう。

◆ 里地にクマを寄せ付けない対策を

トウモロコシやプルーン、モモなどを栽培している畑や果樹園等の周囲には、電気柵を設置したり、ヤブをあらかじめ刈り払うなど、クマを寄せ付けない対策をとりましょう。また生ゴミもクマのエサです。一度餌付いてしまうとその場所に執着するようになり、人に見つかることを恐れなくなるなど、人身事故の可能性が高まります。

秋のクマに注意！



○ 秋のクマは、冬眠に備えて脂肪を蓄えるため、エサを探し回ります

秋のクマは、冬眠に備えてブナ、ミズナラ、コナラ、クリなどのドングリ（堅果）をはじめ、ヤマブドウなど山にある食べ物を昼も夜も探して食べ続けます。ドングリ等が不作の年は、エサを求めて人里に出没し、カキやクリを食べることもあります。

○ 11月中旬頃から、ツキノワグマは冬眠期に入ります

冬の間は食べ物がないため、クマは11月中旬頃から概ね12月末までに、冬眠をはじめます。倒木の根本、木の根と地面とのすき間、岩穴、樹洞などのほか、背丈の高い笹ヤブの中などで冬眠しますので、入山時は近寄らないようにしましょう。

○ ツキノワグマは冬眠中に出産し、3月下旬頃に目覚めて活動を始めます

冬眠前にドングリ等を十分に食べ、栄養が確保できたメスは、冬眠中に1～2頭の子熊を出産します。3月下旬頃、飲まず食わずで冬眠から目覚めたクマは、食べ物を探して山中を動き回ります。出産したクマは子連れとなり、神経質になっています。

クマと遭遇しないよう下記のことにご注意してください。

◇ クマ避け鈴、ラジオ、笛などを携帯する

クマは聴覚や嗅覚が人より優れています。人の気配を感じたクマは自ら避けてくれます。クマ避け鈴、ラジオ、笛など音の出る物を鳴らしながら行動しましょう。

◇ 朝夕の行動は避け、複数人で行動する

朝夕はクマが活発に活動する時間帯です。この時間帯に山中に入ることは避けましょう。また1人ではなく、複数人で行動しましょう。

◇ 周囲を確認しながら移動する

釣りやキャンプで溪流沿いを移動する場合は、水の音でクマも人もお互いに気付かず、思わぬ距離まで接近してしまうことがありますので注意が必要です。またキノコを採る森にはドングリを探すクマも現れます。キノコに夢中になりすぎないように注意しましょう。

◇ 食べ物の匂いを漏らさないよう注意する

クマは人間よりはるかに鋭い嗅覚があります。キャンプや登山等で山に食べ物を持ち込む際は、匂いの漏れない袋などに密閉したり、残った食材は放置せず持ち帰るなど、クマを誘引しない心がけが必要です。人の食べ物の味を覚えたクマは危険を冒しても出没を繰り返すようになります。

◆ 里地にクマを寄せ付けない対策を

秋には、カキやクリ、リンゴなど豊かな実りがありますが、放置してしまうとクマを誘引してしまいます。収穫しない果樹はあらかじめ伐採すること、畑や果樹園等の周囲には電気柵を設置すること、ヤブは刈り払って見通しを確保するなど、クマを寄せ付けない対策をとりましょう。また生ゴミもクマのエサです。一度餌付いてしまうとその場所に執着するようになり、人に見つかることを恐れなくなるなど、人身事故の可能性が高まります。

